

「ふるさとと素晴らしさ」を再発見しませんか？

「ふるさと体験教室」の参加者を募集します！

「ふるさと体験教室」は、子どもたちに“ふるさと・東海村”の素晴らしさを再発見してもらう取り組みです。子どもたちが事業等を企画し、仲間と協力し合うことや最後までやり遂げることを、1年を通して学んでいきます。



期日等▼5回程度/年(予定) ※企画会議を含みます。

対象▼村内在住の小学4～6年生

定員▼30人 ※応募者多数の場合は抽選となります。

参加費▼300円/人 ※▽村民会議非会員は別途300円/世帯がかかります。▽申し込み完了後の返金はできません。

その他▼夏季休暇期間の行事は「東海村エンジョイ・サマースクール」対象事業です。

申し込み・問い合わせ▼各学校から配布される申込書をご覧の上、必要事項を記入し、青少年育成東海村民会議事務局(中央公民館内 青少年センター ☎282-7049)へ申し込みください。※申込書の配布は5月中旬を予定しています。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・延期などを行う場合があります。

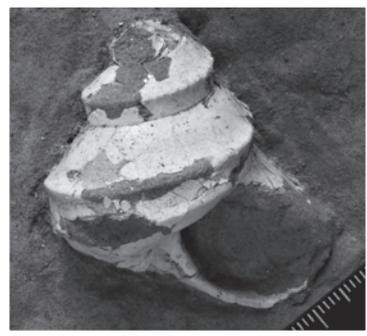
ふるさと歴史訪
〜自然を探して〜

東海村の歴史は深海底から始まった

〔(仮称)歴史と未来の交流館〕展示監修委員
理学博士 菊池 芳文

東海村の大地は、今から11000万年前ごろに堆積した「新川層」と、3000万年前ごろに堆積した「村松層」が基盤を成しています。また、それらが堆積した環境は、産出する化石から、300メートルを超す深海底であったと推測されます。つまり、「東海村の歴史は深海底から始まった」といえます。そこで今回は、深海底で堆積した東海村最古の年代を示す新川層と、深海底の地層で村内に一番広く分布が認められる村松層について紹介します。

新川層は、現在の日本列島の形が誕生しつつある時期に堆積した地層です。当時は、本州の北部まで広がった熱帯の海洋環境が徐々に寒冷化へと向かった時代でした。村松層は、日本列島の形がほぼ出来上がった時代に堆積した地層で、当時は、現在のよに常磐沖から鹿島沖で寒流と暖流がぶつかる環境が誕生した時代でした。それが、同じ地域であるにもかかわらず、新川層と比べて村松層の方が、多様な種類の化石が産出する理由につながる



【ギンエビス化石(村内で産出)】

東海村の大地は、深海底で誕生し、繰り返された地殻変動によつて400メートル以上も隆起して陸地となりました。その間に起きた氷河期と間氷期を経て、現在の地形や環境が誕生しました。決して、昔から現在のような環境が続いていたわけではないのです。

と考えられます。左の写真は、昨年12月22日に村内で実施した化石採集会で、村職員が発見した、村松層を代表する化石の一つ「ギンエビス」の化石です。ギンエビスは、真珠のような美しい光沢の殻をもつ深海性の巻貝で、漢字では「銀恵比寿」と書きます。生きているギンエビスは、本州北部太平洋沖から東シナ海に至る水深200メートルから400メートル付近の、細かい砂の海底に多く生息することが知られています。このことから、村がかつて深海底に位置していたことがうかがえます。ギンエビスの化石は、村内ではそれほど珍しい化石ではありませんが、全国的な産出の記録はわずかです。